

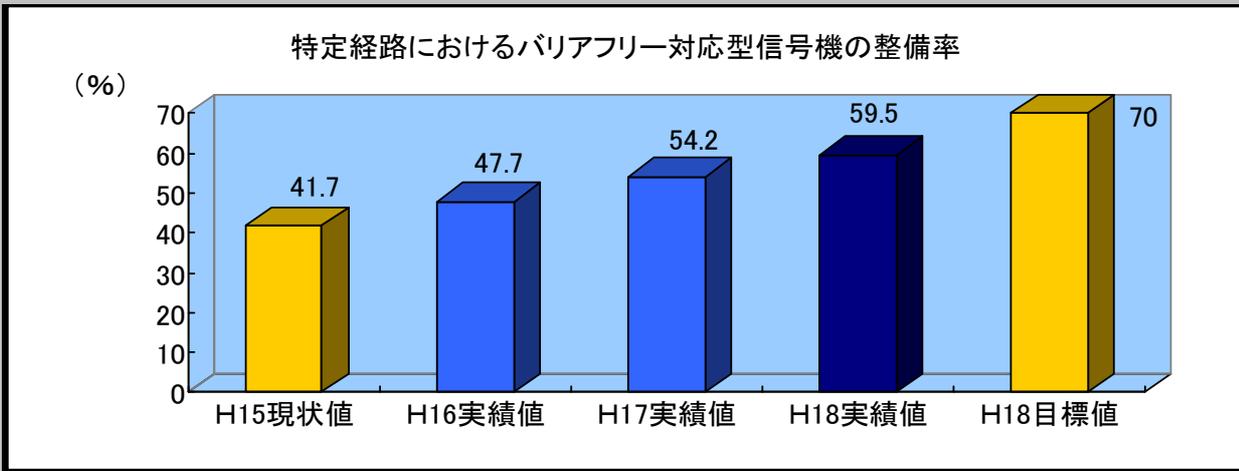
**施策名** 安全で快適な交通環境の整備

**目的（対象、意図）**

信号機などの交通安全施設が、歩行者や運転者にとって、安全で快適に通行できるように整備されている。

**施策の目標**

目 標 項 目	目 標 数 値 等	
特定経路におけるバリアフリー対応型信号機の整備率	目標値	18年
		70%
	現状値	15年
		41.7%



**平成18年の業務ごとの取組、成果とコスト**

業務の取組と成果	平成18年事業費(千円)	平成19年事業費(千円)
<b>1 交通環境の整備</b> 安全で快適に通行できる道路交通環境を確保するため、信号機、道路標識等の交通安全施設の整備を推進し、県内の全信号交差点の約29%をLED灯器に変更するとともに、鈴鹿市内における管制エリアの拡大、老朽化した信号機の更新などを行った。	1,490,553	1,479,597

## 業務評価を踏まえた総括評価

### ・目標達成に向けた平成18年の取組と成果

歩行者が安心して通行することができる道路交通環境を確保するため、「あんしん歩行エリア」・「事故危険箇所」の整備、交通弱者等が利用しやすいバリアフリー対応型信号機の整備、歩行者・自転車を保護する交通規制を実施したほか、道路管理者等と連携した面的・総合的な事故防止対策を推進した。

四日市サブセンターにおける下位装置の更新等による交通管制センターの高度化、中勢以北における光ビーコン（交通情報収集装置）20基の整備など、交通情報提供の高度化を推進し、交通管制の最適化を図った。

鈴鹿市内の信号交差点10箇所を管制エリアに組み入れ、交通の安全と円滑を図った。

老朽化した管制エリア内の信号機29基を更新した。

### ・残った課題とその要因

平成18年中の交通事故の総発生件数は、一昨年と比較し減少しているものの（65,376件、前年比 - 1,851件）、依然として高水準で推移している。交通事故の犠牲者を一人でも減少させるため、引き続き、交通安全施設の整備充実を進めていくとともに、道路管理者等との連携強化を図り、安全で快適に通行できる道路交通環境の整備を推進する必要がある。

### ・課題と平成19年の取組み

信号機の高度化改良、道路標識等の整備を計画的に推進するとともに、「くらしの道交通安全施設整備事業」において、信号機の新設整備を推進する。

交通事故多発箇所の解消に向けて、道路管理者や地域住民・道路利用者等との共同による現場点検を実施し、必要な交通事故防止対策を講じる。

交通管制センターの高度化（伊勢サブセンターの下位装置の更新）及び朝夕の交通渋滞が顕著な名張市内の信号交差点43箇所の管制エリア化を図るとともに、環境にやさしく視認性の高いLED信号灯器を整備するなど、交通の安全と円滑を図る。